

第6回常呂川減災対策協議会  
議事概要

日 時：令和2年6月24日（水）10：00～11：00

会 場：北見市民会館 小ホール

出席者：北見市長、訓子府町長、置戸町長、北海道オホーツク総合振興局副局長、網走地方気象台次長、陸上自衛隊第6普通科連隊第3科運用訓練幹部、北海道警察北見方面本部警備課長補佐、北見警察署地域・交通官、北見地区消防組合消防本部消防長、網走開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 情報提供
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

(北見市)

- ・現在、改正北海道避難所マニュアルに沿って避難所におけるマスクや消毒液、感染防護具等の準備、備蓄を進めている。
- ・避難所開設に係るゾーニング計画及び避難所運営に要する健康管理、衛生管理面での新たな人員体制やその手順について確認を行っている。
- ・市民の皆様にも、あらかじめ安全な避難先を複数確保する分散避難の考え方や、避難所においてもマスク着用や手洗い、消毒、家族以外の方とはできる限り距離を保つなどの新しい生活様式の実践について周知啓発し、協力いただく必要がある。
- ・市民の分散避難や感染対策を取り入れた避難所開設準備などにこれまで以上のリードタイムを確保する必要があり、ハード対策、ソフト対策の一層の取組や感染者または疑いのある方々の対応も併せて、関係機関とのさらなる連携が必要である。

(訓子府町)

- ・防水カメラも含めてこの1年間で常呂川、訓子府川流域の水位計と雨量計を3つ設置していただき感謝する。経験に頼っていた水位を、こうした機器によって確実なものにすることができうれしく思っている。
- ・消防庁舎の老朽化に伴い、令和3年度建設に向け、新しい消防庁舎の検討会議に入っている。
- ・1000年に1度の水害を想定すると、今までのハザードマップでは通用しないこともあり得るため、今後、見直しが必要かどうか関係機関と協議・議論していきたい。

(置戸町)

- ・災害は忘れた頃にやってくるということわざがあるが、近年は災害は忘れる前にやってくるということで、命を守るためには住民の自主防災組織の活躍が大前提だと思う。

- ・置戸町では中学校、地域の住民それぞれで実践的な防災訓練を通じて防災意識を高めていくという取り組みをしている。今年はコロナウイルスの感染予防の関係で町内会ごとの総会等が開かれていないが、引き続き自主防災組織の育成や住民の意識向上、中学生、小学生の防災に対する学習を深めていきたい。
- ・1000年に1度の災害、水害を想定した防災計画、ハザードマップの改訂等を進め避難への意識を高めていきたい。

#### （北見地区消防組合）

- ・自治体等の関係機関と連携していきながら、消防団の教育を充実、発展させていきたい。
- ・引き続き、職員、消防団員の水防技術習得に努め、各機関と連携して災害対応をしていきたいが、消防の災害対応の担い手である団員が年々減少している。
- ・組合内に6つの消防団があるが、組合団員の定数820名に対し670名と充足率は82%の状況である。人口減少、高齢化、雇用体系の変化など様々な要因で団員確保に苦慮している。団員確保について各機関に協力をお願いしたい。
- ・タイムラインはそれぞれが実施すべき行動が明確に記されており、消防として装備や団員の増強等早期の対応に心がけていきたい。
- ・特に災害現場では各機関との情報共有が最も重要であると認識している。

#### （北見警察署）

- ・防犯、災害の住民に対するの広報は、広報媒体を活用して継続するとともに、各種防犯や交通等の講話等、住民への防災意識の向上を努めていく。
- ・今後は北海道スタイルに基づいた講話を検討し、継続して防災意識の向上に努めていく。
- ・住民の命を守るために各機関と協働して今後とも対策を講じていきたい。

#### （北海道警察北見方面本部）

- ・新型コロナウイルスの関係で、各自治体で避難所運営のあり方を変えていく取組に付随して救助方法や避難所の警戒の仕方等を変えていく必要があると感じている。計画、マニュアルの作成段階で構わないので意見交換の場があればいいと思う。
- ・北見方面本部は災害救助の部隊を独自に配置し、訓練を進めている。各自治体で防災訓練を実施する際には訓練の機会を与えてほしい。

#### （陸上自衛隊第6普通科連隊）

- ・去年、災害用ドローンが2機導入し、現在部隊で訓練を実施している。
- ・引き続き、各市町村や関係機関と協力していくとともに、各種訓練の支援を積極的に実施したい。

#### （網走地方气象台）

- ・防災・減災への取組として、昨年度に引き続きタイムライン、地域の避難訓練、学校の防災教育等に取り組むとともに、各機関に協力いただき普及啓発に注力していく。
- ・防災情報提供システムというネット環境上で見るツールのIDを各機関に配布している。出水期の留意点として、气象台を上手に使っていただき各機関の防災体制の構築に利活用してほしい。

(北海道オホーツク総合振興局)

- ・北見市で1月に実施した北海道総合防災訓練での課題等を検証し、厳冬期における地域防災対策の更なる強化を図っていきたい。
- ・児童生徒に対する防災教育として、1日防災学校を実施しており、今年度から全ての学校において防災のカリキュラムを取り入れることから、今後益々防災教育の充実が必要となるので、引き続き協力をお願いしたい。
- ・道ではコロナウイルス感染症対策を盛り込んだ避難所マニュアルを5月に改正し、6月21日にはそのマニュアルの検証訓練を恵庭市で行っており、後日、皆さんにその検証結果をお知らせすることとしている。

以上